千葉市立千葉高等学校　ＳＳＨ研究開発　第２期と第３期の関係

第2期

S,In,C-A（シンカ）Science,International,Curriculum-ACADEMY～科学をより身近に，目標をより高く～

■Chiba City Science Networks（C.C.S.N.）の構築

■科学系人材育成を目指したカリキュラム開発
（クロスカリキュラム・普通科SSHコースの創設）

■課題研究の先進的指導法・指導体制の研究開発

■フィールドワークの発展的進化と指導法の研究開発
（伊豆大島、立山・黒部湖、米ヨセミテ等）

■海外諸機関連携と国際性を育む取組
（外国人研究者招へい講座、米科学館でのサイエンスショー等）

■大学及び外部諸機関連携の再構築
（大学・研究機関との32連携講座の開設等）

成果

〇小中高合同の科学研究発表会の参加者増
〇研究内容の質や発表技術の向上
〇クロスカリキュラムの実施回数増える等SSHの狙いを踏まえた教育課程が確立
〇国内外の科学コンテスト入賞数増
〇研究内容によって進路選択する生徒の増
〇国公立大理数系学部進学者の増

課題

▼小中の教員の課題研究の指導力をあげる等、**千葉市の科学都市戦略の中核を担う**ことが必要
▼**課題研究をより充実**させるためのカリキュラム等の見直しが必要
▼**フィールドワーク、クロスカリキュラムを継続・発展**させるための体制が必要
▼外部連携講座の**目的・目標を明確にすること**が必要
▼**大学の学びにつながる授業**を開発することが必要
▼教育課程内外の取組を**カリキュラム・マネジメントの視点から再構成**することが必要
▼取組ごとに重点的に育成すべき能力を明確に意識し、**指導と評価を一体的に行う**ことが必要

全生徒による探究活動
全職員によるＳＳＨ

第3期

■地域の中核拠点【重点枠】
・学校種を超えた課題研究の指導者育成
・小中段階での人材発掘・才能伸長

■教育課程の進化
（全生徒での探究活動（総合的な学習の時間）SSHコースの進化、クロスカリキュラムの発展）

■課題研究の先進的指導法と評価法の確立
（ルーブリック評価の開発等）

■フィールドワークの指導法と評価法の改善
（指導者の養成、行動時の評価法の開発）

■グローバル人材に必要な自己表現能力の育成
（留学生TAの活用等）

■高大接続カリキュラムの開発
（千葉大工学部との授業開発等）

■大学及び外部諸機関との連携の再構築・発展
（外部連携講座の目的の明確化、海外大学・企業との連携等）

カリキュラム・マネジメントの確立により科学技術人材に必要な能力を効果的に育成